



## 創世ホール名画鑑賞会 Vol. 35 心の傷を癒やすということ

### 創世ホール名画鑑賞会 Vol. 35

日時：令和4年5月14日(土)

① 午前10時30分 / ② 午後2時

会場：3階 多目的ホール

前売り券の購入について、ただいま図書館カウンターでの販売は停止しております。カウンター及び電話での予約受付のみの取り扱い(前売り券の代金は開催日当日に、受付にてお支払いいただきます)となります。ご了承ください。

入場料：大学生・一般 前売1,000円(当日1,300円)  
小・中・高 当日のみ1,000円  
シニア(60歳以上)当日のみ1,000円

上映作品：『心の傷を癒やすということ』  
(2020年・日本・116分)

出演▼柄本佑、尾野真千子、濱田岳、森山直太郎、浅香航大、清水くるみ、上川周作、濱田マリ、谷村美月、趙珉和、内場類、平岩紙、キムラ緑子、石橋凌、近藤正臣

監督▼安達もじり

原案▼安克昌「心の傷を癒やすということ神戸…365日」



誰も、ひとりぼっちにさせへん

主催：創世ホール名画鑑賞会実行委員会  
(問い合わせ：088-698-1100)

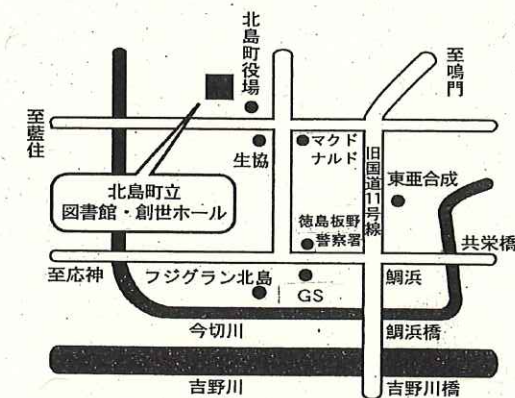
内容▼安和隆は自身のルーツが韓国にあることを幼少時に知って以来、自分は何者なのか模索し続けてきた。やがて人の心に関心を持つようになった彼は、父に猛反対されながらも精神科医の道へと進む。映画館で出会った終子と結婚し、第一子も生まれて幸せな日々を送っていたある日、神戸の街を大震災が襲う。和隆は避難所で被災者たちの声に耳を傾け、心の傷に苦しむ人々に寄り添い続ける。

### ※創世ホールに来場される方へ※

▼入場される方には、マスクの着用と手指のアルコール消毒をお願いいたします。

▼観客同士の距離を一定の間に保つため、3階多目的ホールの座席数を減らしております。(前後左右を1席空けてお座りいただくようにしております)

■なお、今後の感染症拡大状況に応じて、対応を変更することがあります。ご迷惑をおかけしまして恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



# 文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

## 全国公文協アートマネジメント講座での小西発言

### 中小規模館における予算ゼロの

### おもしろ事業展開②

●小西昌幸（元北島町立図書館・創世ホール館長）

●以下に掲載するのは、文化庁・全国公立文化施設協会主催で行なわれているホール職員などを対象にした研修会で、2019年2月に小西が講師を務めたときの発言記録です。研修会全体の正式名称は、《平成30年度 全国劇場・音楽堂等職員 アートマネジメント・舞台技術研修会2019》で、その中にたくさんさんの講座があります。小西が関係した講座のタイトルは、「中小規模館における予算ゼロのおもしろ事業展開」というものでした。司会進行が岸正人さん（公財）としま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場開設準備室 課長）、もう一人の講師が出口亮太さん（いでぐち・りょうた 長崎市チトセピアホール 館長）でした。小西は、長崎の出口さんの後に約30分間発言しました●3回に分けて掲載します。【会場＝国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟101号室、日時＝2019年2月6日（水）13:00～15:00】

【小西】（前号からの続き。徳島県警察音楽隊による「子育て支援ファミリー・コンサート」の項）■子どもたちが、例えば「ちびまる子ちゃん」にせよ、「ドラえもん」にせよ、自分たちの知っている音楽のイントロが流れると、隣の子の肩をバンバンと叩いて、「これ、知っとおよ、知っとおよ」みたいなことで大合唱が始まるわけです。それを見るだけで、何となく目頭が熱くなってきたりするんですね。それが演奏家に伝わって、演奏家も何か涙ぐんでいたりして、あと、赤ちゃん向けの催しなので、おむつも替えられるように、ロビーに何というか、カーペットを敷いて、つい立ても置いて、そういう取り組みをしています。そのときに、とても気を遣ったのは、県警音楽隊のバスの停車位置を前の夜から確保することと、大きな太鼓とか打楽器をどう搬入するかという動線の問題ですね、そういうのはかなり気を遣いました。基本的に向こうはお仕事でしているので、無料は無料なんですけれども、せめてお弁当をということだったので、600円ぐらいの寿司とお茶を渡すことでやっています。そのお金は教育委員会の生涯学習補助金があるんですけども、担当者にそこから回してもらって道筋をつけたので、ホールは全然お金を出さずにやっています。毎回、お父さん、お母さんと赤ちゃんの関係だけで40組ぐらいは来ていて、あとは幼稚園、保育所の人たち、子どもさんとか先生も来られているので、大体満席になっています。

■ほかによく似た形式の無料の催しでは、「3.11映画祭」があります。これは例えばTSUTAYAとか、いろいろレンタルビデオの業界団体があるんですけども、その人たちが東北の大災害を風化させてはいけないということで、「3.11映画祭」というのを東京都内や全国各地でやっていたようなんです。それに呼応して徳島でもやるということで、その中に遠藤ミチロウさんという、元ザ・スターリンの方のドキュメンタリー映画があって、それもれっきとした「3.11映画祭」の作品だったんです。北島町では、遠藤ミチロウさんのライブをたくさんやっていますから、「どうですか」という話があったので、それはもう「やりましょう」みたいな感じで、即決で、それでやるようになりました。

■今日、お渡しした資料は、去年の「ハッピーアイランド」という

映画会のもので、この年は、徳島と福岡だけしか、「3.11映画祭」はできなかったようです。

■次に、予算ゼロの有料の催しで、主催が実行委員会で、ホールは名義共催にするという形のお話をします。どうして名義共催の形にする必要があるかということ、主催をホールにしてしまうと、トラブルが起こります。

■あくまでも実行委員会が事業をやって、そこに収益を全部持ってもらうということをしています。その実践としては、「創世ホール名画鑑賞会」というのを年2回やっていて、これは徳島映画センターさんに、年2回、日程調整して、会場は無料でお貸しします。ただ、チラシの印刷費もフィルムのレンタル料も、映写技師とかもぎりの派遣も全部お任せしますと。その代わりに利益が出て、赤字が出て、全部そっちがかぶってくださというような約束をしてやっています。

■北島町内はシネコンがあるので、なかなか大変なんですけれども、最近だと「人生フルーツ」という作品とか、あるいは一番新しいのは「神宮希林」という樹木希林さんが伊勢神宮へお参りするドキュメンタリー映画を上映しました。「神宮希林」は200人ぐらい来たから、少しは利益はあったと思います。ひどいときは入場者が80人ぐらいのときもあるので、それはちょっと厳しいんですね。だから、映画センターさんには、上手に長くやっていただきたいと思っています。

■それから、ジャズの日野皓正さんは3回やっています。これはどういういきさつかということ、徳島県の鳴門市の大麻町というところご出身の方が、日野さんのマネージャーをやっていて、その人のお父さんが創世ホールをすごくかってくれていて、北島町でできないかなという、ちゃんと貸館として申請書も出して話を持ってこられたことがあるんです。そのときに、私、最初は貸館でいこうと思っていたんですけども、一晩ずっと考えて、要は、日野さんは、うちが正式に声をかけて、依頼をして呼ぼうとしたら、多分数百万かかるだろう。1,000人規模を埋められる方ですからね。

■せっかく、いい話を持ってきてくれているんだからということで、チラシに共催創世ホールと刷り込んで主催は実行委員会にしてください、収益は全部持ってってください。ただ、受付とか当日の運営は、全部そちらで責任を持ってってください。宣伝の協力はしますという、そういう条件でやって、チケットはすぐに完売、リハーサルの際に日野さんは地元の中学生のブラスバンド部の演奏指導もやってくださったので、そういう取り組みも実践できた。それを2回開いた。3回目のときは、鳴門市の実家に、そのマネージャーの方が帰っているときに、たまたまその年の3月末が私の定年退職のときだったんですけども、お父さんが、「北島町の小西君が定年退職するらしいわ」と言ったら、「それなら、お父さん、もう一回やろう」と言ってくれたらしいですよ。それで3回目を実現した。

■そのときは、前日に日野さんが、マネージャーさんのご実家でパーベキューをするから小西君も来なさいということで伺って、サインをいただいたりしました。

■同じような取り組みで、一昨年、「レインボー映画祭」という催しをやりました。これは有料の持ち込み企画だったんですけども、

とても真面目な、しかも責任をちゃんと持って取り組めるというのがはっきりしていたので、喜んで協力しました。これは性的少数者の人の作品上映会でした。「パレードへようこそ」という、イギリスのゲイとかレズビアンの人たちが炭鉱労働者のストライキに連帯を表明して、現地に行くんですけども、保守的な炭鉱のまちでは石を投げられたりする。そして最後はとても深い友情が結ばれるという、胸が熱くなるような映画でした。それはよかったなと思います。

■もう一つのパターンは、有料の催しで予算がゼロなんですけれども、ほとんどホールが実態的に実行委員会をしている。要するに、私が深く関与した実行委員会の主催で共催を北島町立図書館・創世ホールとチラシに刷り込む、これがさっきお話しした北島トラディショナル・ナイト・シリーズというケルト～アイルランド音楽のシリーズですね。それを毎年ずっとやっています。

■それから、遠藤ミチロウさん。この方は10回、北島町でやっています。遠藤さんのギャラの最低保障は●万円です。あとPAの業者さんが2万から3万円ぐらい要するんですけども、だから合計□万円ですね。それ以上の売り上げは全部遠藤さんのギャラに上乗せして手渡すということにしています。私がたまたま個人的に『ハードスタッフ』というミニコミをつくっている人間で、ザ・スターリン時代の遠藤さんにインタビューして、面識がありました。

■そして90年代に遠藤さんから、「最近、ソロでアコースティック・ライブをしているけど、小西君、徳島でやれんかな」という相談を受けました。それで、ずっとライブハウスのお世話をしていたんですけども、ライブハウスでやると、結局、遠藤さんの取り分が減るわけです。ですから、もっとたくさんギャラが渡せないかなと考え、創世ホールの2階のハイビジョン・シアターという四角い部屋でやることにしたわけです。

■で、少額の手作り企画をやっていますと、出演者の方が、ビジネスホテルに泊まると1万円ぐらい、自腹を切らないといけないわけですね。それで、私のうちにお泊めするようになったわけです。だから、遠藤ミチロウさんは、何回もうちに泊まっていて、本人はステージではものすごく狂暴になるんですけども、一旦、ステージを降りるとものすごく折れ目が正しくて腰が低い。だから、私のおふくろなんかは、遠藤さんはとてもいい人だと思っているわけで、まさか、全裸でステージに立ち、ブタの頭を投げた人であることを知るよしもない。

■ちゃんと家に来ると仏壇に手を合わせるようなタイプの人なので、何て折れ目正しい人なんだというようなことですね。さらに、落語家と講談師の催しもやっていて、笑福亭たまさんという方と旭堂南湖（きょくどうなんこ）さんという方の二人会というのもずっと続けています。

■これは資料の1ページ目にあると思うんですけども、この方たちも、うちに泊めていました。だから2人泊まるんですよ。それで、おふくろがとても仲よしになって、おふくろは今85ぐらいなんですけど、おふくろのルートでチケット5枚は売ってくれる。それから私の妻も5枚ぐらい、バレーボール仲間とかマラソン仲間売ってくれるわけです。こういうことをやっていると気がついたのは、家族は大事にしないといけないなということです。（次号に続く）